

教養講座 地元学と考える

第四百十一回「地元学と考える」
(二〇一五年九月十九日開催)

「農村に生きる女性たちから学ぶこと」と題して渡部八重子さんのお話を聞きました。

講師 渡部 八重子さん

「農村に生きる女性たちから学ぶこと」と題して渡部八重子さんのお話を聞きました。何ともあったかい訛りを含む響きが会場をやさしく包んだ気がします。渡部さんは仕事を通して、農村に生きる女性たちの忍耐や底力を豊かさにつなぎ、社会参加と地位向上を願いながら尽力された方だと思ひ聞かせていただきました。

そんな仕事と共にたくさんの方々の人生に接する中で、なぜ「民話」の世界に繋がっていったのだろう・・という思いを持ちながら聞かせていただきました。

そして今回、なるほど、と思わせてくれる「嫁の草取り」という民話に出会いました。

すでに嫁いでいる嫁が、何とかこの家から「出されたい」と思っています。そして姑から嫌われるようにとあれこれ画策しますが、当の姑にはまったく通用しません。何を企てても、ほめられるだけで追いつめられ、事には至らなかったのですが、具体的にはこんなことです。

嫁は、毎日のご飯炊きが下手なら追い出されるだろうと考え、こげ飯を炊きます。そうすると姑は「焦げ飯は香ばしくてうまいこと」となるわけですが、やわい飯を炊いてもその通り。干し柿づくりで皮を厚くむくと「あら、ちょうど沢庵漬けに混ぜると甘くなつて旨いのない」と言われ、田んぼの草取りも手でとると爪が真っ黒になると、足でけりながら株の周りを踏んで終わらせると、この年これまでになく大豊作であった。それは株の周りにたくさんさんの酸素が供給された大きな株になったと言うものなのです。



「大した嫁・・だ」と褒められ、とうとう嫁は追い出されることには至らずじまいだったわけですね。

こんな民話を通して慰めることの大事さや、例えを用いて大切な教訓を語り継いでいったのだと感心しました。

この民話の中で姑が褒めながら語る言葉は、私たちがシャロームの中で大竹代表が、私たちに話す言葉に似ているな・・・と思います、おもわず大竹代表の顔を見てしまいました。

人の良いところを感じ取り、褒めることはお互いに心を和やかに、穏やかにしますよね。

「嫁の草取り」タイトルからは想像しにくい内容ですが、とても深いものがありました。(C・N)

教養講座 地元学と考える 第四百十三回予告

聖書と日本の未来

<講師> 三神たけるさん (学研パブリッシング 『ムー』編集長)
<日時> 2015年11月7日(土) 13:30~15:00
<会場> まちなか夢工房2階 <参加費> 500円

<講演内容>

旧約聖書の「創世記」(6章~9章)で登場する「ノアの箱舟」。40日40夜続いたという大洪水は、地上に生きているものたちを滅ぼし尽くしたとされています。三神さんには、ノアの箱舟にまつわる巨人や小人、ビッグフット、恐竜等の生物や箱舟について、さらにはガイアについてもお話しいたします。

また、使用開始が目前へと迫り、現在注目を浴びている「マイナンバー制度」。今年の10月からマイナンバーが記載された「通知カード」が各市区町村から国民へと配送されています。制度への様々な懸念の声が国民から上がっている中、マイナンバーは「支配完了のしるし」だと三神さんはおっしゃいます。聖書に秘められた未来への予言について、三神さんに語っていただきます。

*参加人数把握の為、地元学講座各回ごとに出欠のご連絡をいただければ幸いです。(tel 024-524-2230 または fax 024-525-8285 までお願いいたします)



展

グッドデザイン賞受賞展 GOOD DESIGN EXHIBITION 2015

日時 2015年10月30日(金)~11月4日(水)
11:00~20:00
(10/30は13:00~、11/4は~17:30、入場は閉館30分前まで)

会場 東京ミッドタウン

入場料 ¥1,000 (税込、一部入場料不要エリア有)

本年度受賞デザインとして「ひまわりプロジェクト」も展示されます。今年の特徴は「フォーカス・イシュー」。社会や暮らし、産業をより良く導くデザインが展示されます。

詳しくはこちら→「G展」公式サイト
<http://www.g-mark.org/gde/2015/index.html>